

① 日本国特許庁 (JP)
 ② 公開実用新案公報 (U)

① 実用新案出願公開

昭55-15231

⑤ Int. Cl.³
 D 04 D 11/00

識別記号

庁内整理番号
 7425-4L

④ 公開 昭和55年(1980)1月31日

審査請求 有

(全 4 頁)

④ 紐通し具

① 実 願 昭53-97141
 ② 出 願 昭53(1978)7月13日
 ⑦ 考 案 者 松岡修造

大阪市阿倍野区晴明通9番35号
 ① 出 願 人 松岡修造
 大阪市阿倍野区晴明通9番35号
 ④ 代 理 人 弁理士 小谷悦司

⑤ 実用新案登録請求の範囲

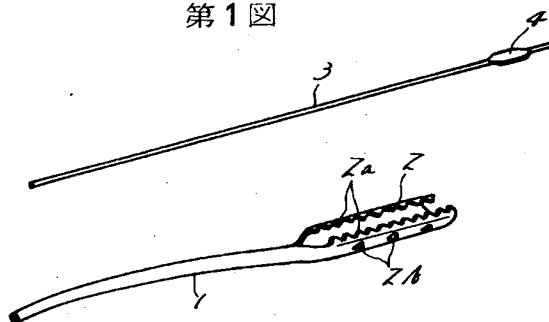
後端部に紐止め付け部を有する中空ビン状の紐通し具本体と、サポートビンとからなり、このサポートビンを上記本体に、該本体先端部から突出する状態で長さ方向にスライド自在に嵌入させることを特徴とする紐通し具。

図面の簡単な説明

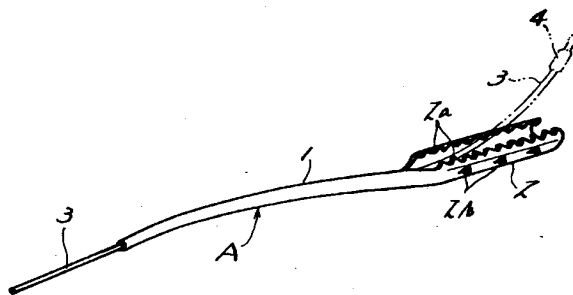
図は本考案の実施例を示し、第1図は分解斜視図、第2図はサポートビン装着状態の斜視図、第3図は紐取付状態の斜視図、第4図は同断面図、第5図および第6図は使用状態を示す斜視図である。

1……紐通し具本体、2……紐止め付け部、3……サポートビン、B……紐。

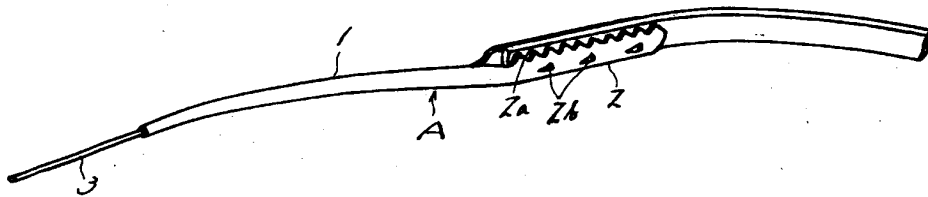
第1図



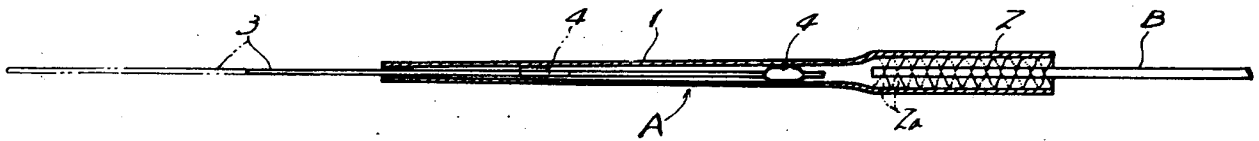
第2図



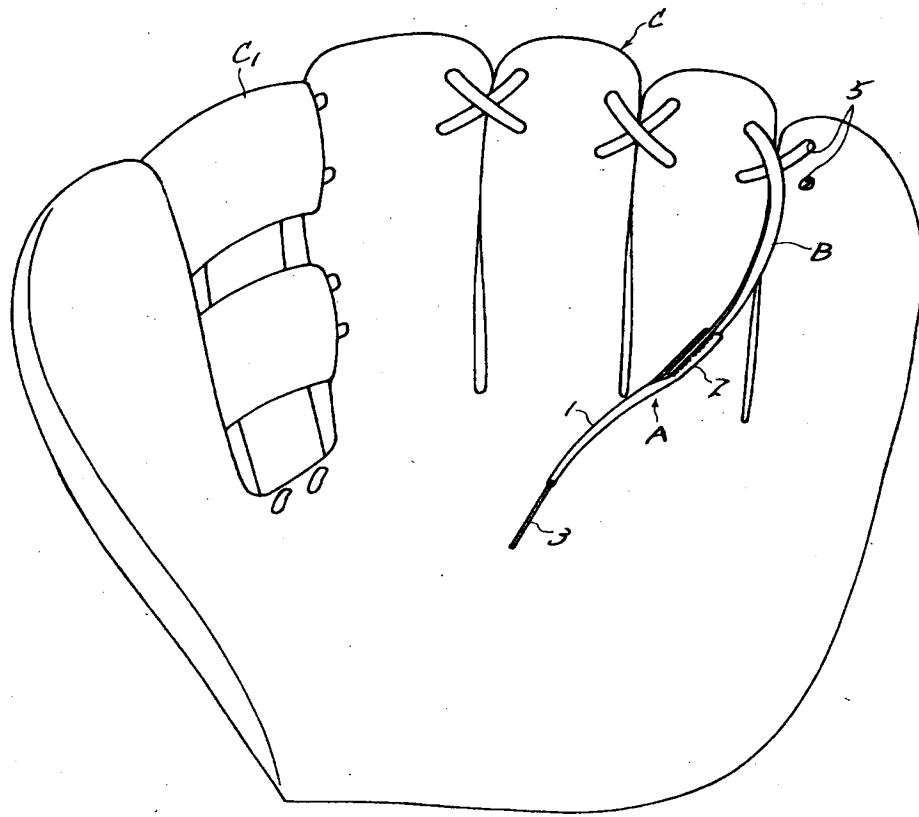
第 3 図



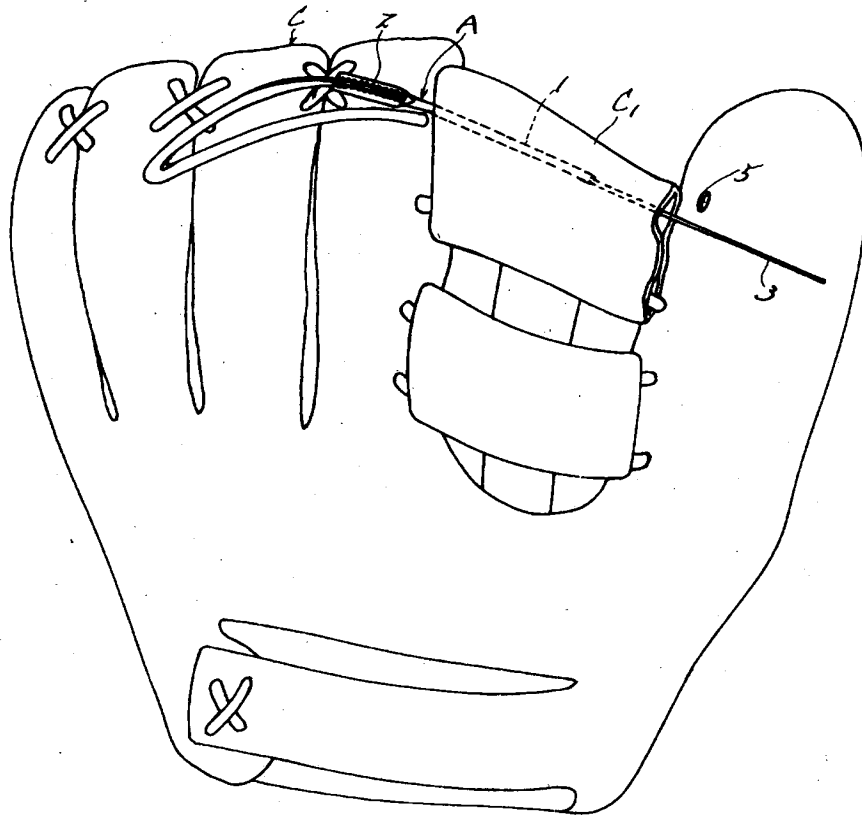
第 4 図



第 5 図



第 6 図





(4,000円)



実用新案登録願

昭和53年7月13日

特許庁長官 熊谷善二 殿

1. 考案の名称

ヒモ トオ 紐 通 し 具

2. 考案者

住 所

実用新案登録出願人と同じ

氏 名

3. 実用新案登録出願人

住 所

大阪市阿倍野区晴明通9番35号

氏 名

マツ オカ シュウ シウ
松 岡 修 造

4. 代理人

住 所

〒550 大阪市西区西本町1丁目10番3号 新松岡ビル

氏 名

(6782) 弁理士 小谷悦司

電話 06 (541) 2281 (538) 0071番

5. 添付書類の目録

(1) 明細書

(3) 願書副本

(5) 出願審査請求書

特許庁

53.7.15

第二場
大畑

(2) 図 面 1 通

(4) 委任状 1 通

通 55-15231

53 097141

方式
査



明 細 書

1. 考案の名称 紐 通 し 具

2. 実用新案登録請求の範囲

1. 後端部に紐止め付け部を有する中空ピン状の紐通し具本体と、サポートピンとからなり、このサポートピンを上記本体に、該本体先端部から突出する状態で長さ方向にスライド自在に嵌入させてなることを特徴とする紐通し具。

3. 考案の詳細な説明

本考案はグラブ等の革製品その他において紐を製品の孔にさし通す場合に使用される紐通し具に関するもので、奥行の深い孔にも紐を簡単に能率良く通すことができ、しかも、孔の深さ等に応じて自由に伸縮調節できる紐通し具を得んとするものであり、その構成は次の通りである。

本考案は、後端部に紐止め付け部を有する中空ピン状の紐通し具本体と、サポートピンとからなり、このサポートピンを上記本体に、該本体先端部から突出する状態で長さ方向にスライド自在に嵌入させてなることを特徴とする紐通し具である。

以下、本考案の実施例を図に依拠して説明する。

1は紐通し具本体で、金属帯板をチューブ状に曲げ加工することによつて中空ピン状に形成し、後端部のみ樋状に開放させて紐止め付け部2を形成している。この紐止め付け部2は開放縁部が歯状に形成2aされ、かつ、両側面部内側に突起2b…が膨出形成されている。こうすることにより該紐止め付け部2に紐を確固と止め付け得るようにしている。3はサポートピンで、後端部を扁平に圧縮して抜け止め部4を形成している。このサポートピン3を、本体1の先端から突出する状態で該本体1の内空部に長さ方向にスライド自在に嵌入させることによつて、本考案にかゝる紐通し具Aが構成される。この紐通し具Aにおいては、サポートピン3を本体1の先端側に引き出したり押し込んだりすることによつて、全体長さを自由に調節できるものである。

なお、本体1の先端部を若干細く絞つており、この先端部内面にサポートピン3の抜け止め部4が引つ掛かることによつて該ピン3が抜け止めさ

れる。また、サポートピン3のスライドに対して適度の拘束力を作用させるために、本体1を若干彎曲させてピン3に一定の摩擦抵抗を与えている。サポートピン3の素材としては剛体的なものを使用してもよいが、適度の柔軟性をもったものを使用するのが望ましい。こうすれば、該ピン3が孔の曲がりに応じて彎曲して本体1をスムーズに先導し、また、本体1を孔から引き出す際に抵抗があつても、ピン3の端を折り曲げて強く引っ張ることができる等の便益がある。

この紐通し具Aは、野球用のグラブにおける各指結着用の紐の取替え時や、自動車ハンドルカバーの装着時等種々の分野において革製品その他に設けられた孔に紐を通す場合に便利に使用することができる。使用に際しては、第3、4図に示すように、紐Bの先端部を紐止め付け部2に挿入した状態で該紐止め付け部2をペンチ、金鋸等で圧縮して、紐先端部を紐止め付け部2に圧着固定する。このとき、歯状部2aが紐先端部に両側から喰い込み、かつ、突起2b…が同紐に圧接するこ

とによつて、紐 B が紐止め付け部 2 に非常に強固に固定され、作業中、紐 B に相当強い引つ張り力が加わつても、これが紐通し具 A から外れるようなおそれがない。

この状態で紐通し具 A を、たとえばグラフ C の各指に設けられた孔 5 … に順次さし通していけばよい。こうして、紐 B を孔 5 … に簡単に能率良く通すことができる。とくに、このグラフ C の指孔 5 … のように比較的奥行の深い孔でも、この紐通し具 A を使用することによつて紐 B をスムーズに通すことができる。また、孔が小さい場合、あるいは製品素材の復元力によつて孔が塞がれ気味になっている場合にも、サポートピン 3 が本体 1 を先導することによつて楽に通すことができる。その上、サポートピン 3 を出し入れすることによつて全体長さを自由に伸縮調節できるから、この紐通し具 A を、孔の深さに応じて適正な長さで使用する事ができる。たとえば、グラフ C のウェーブ部分 C₁ に紐 B を通すときには、サポートピン 3 を引き延ばして紐通し具 A を伸長させることによ

り、相当奥行の深いこのウェーブ部分C₁にも紐通し具Aを楽に通すことができる。また、通常の指孔5…に対しては、サポートピン3を引っ込めて全体長さを短縮させれば、紐通し具Aの小回りが効き、能率がよいとともに、紐通し具Aの長さ分だけ必要な紐Bの余り代が短くてすむ。

紐通し作業が終った後は、紐Bを紐通し具Aの手前で切断し、その終端部を通宜結束すればよい。この紐通し具Aは低コストで製作でき、従つて安価で提供できるため、使い捨てにできるが、使用后、紐止め付け部2をペンチ等で再び開放させて反復使用することもできる。

上記のように本考案の紐通し具によれば、革製品その他において紐を孔に簡単に通すことができ、とくに比較的奥行の深い孔への紐通し作業を能率良く行なうことができる。しかも、サポートピンを出し入れすることによつて全長を自由に伸縮調節できるため、この紐通し具を孔の深さに応じて適切な長さとして一層便利に使用することができる。また、サポートピンの採用によつて、小さな

孔や製品素材の復元力によつて塞がれ気味の孔等にも塞にさし通すことができる等、実用上きわめて有益なものである。

4. 図面の簡単な説明

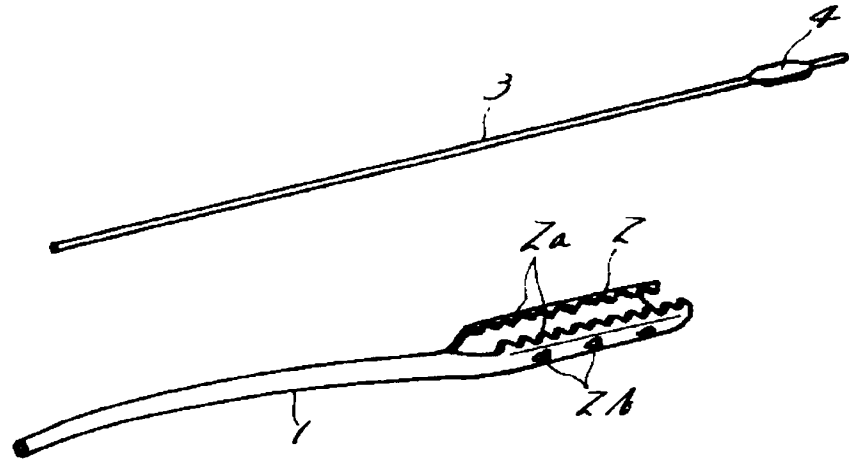
図は本考案の実施例を示し、第1図は分解斜視図、第2図はサポートピン装着状態の斜視図、第3図は紐取付状態の斜視図、第4図は同断面図、第5図および第6図は使用状態を示す斜視図である。

1………紐通し具本体、2………紐止め付け部、3………サポートピン、B………紐。

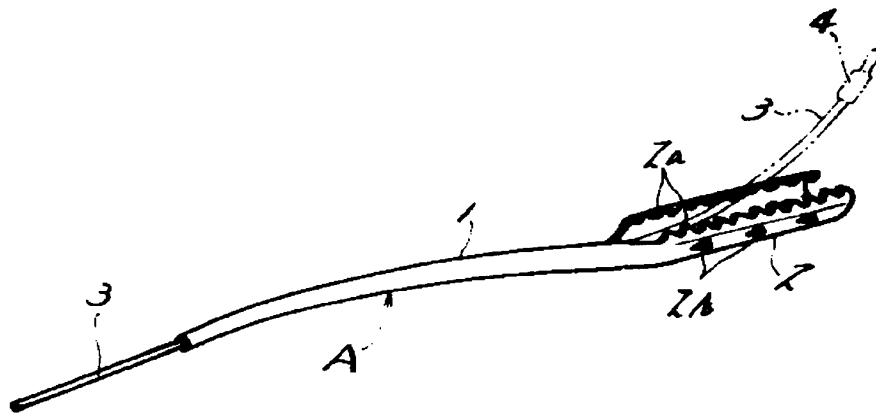
実用新案登録出願人	松	岡	修	造
代理人 弁理士	小	谷	悦	司



第 1 圖



第 2 圖

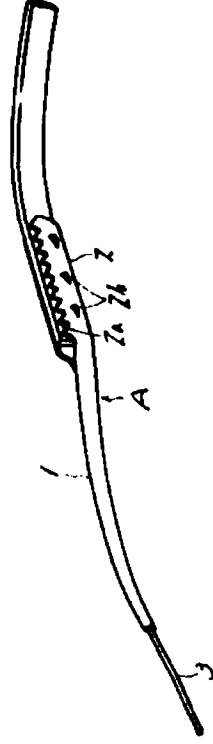


15231 1/4

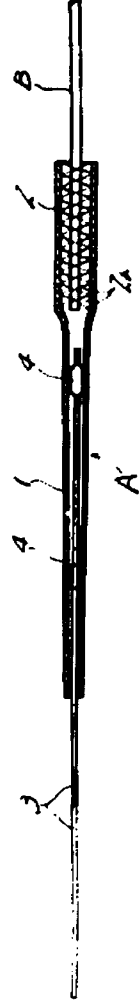
代理人 并理士 小谷悦司



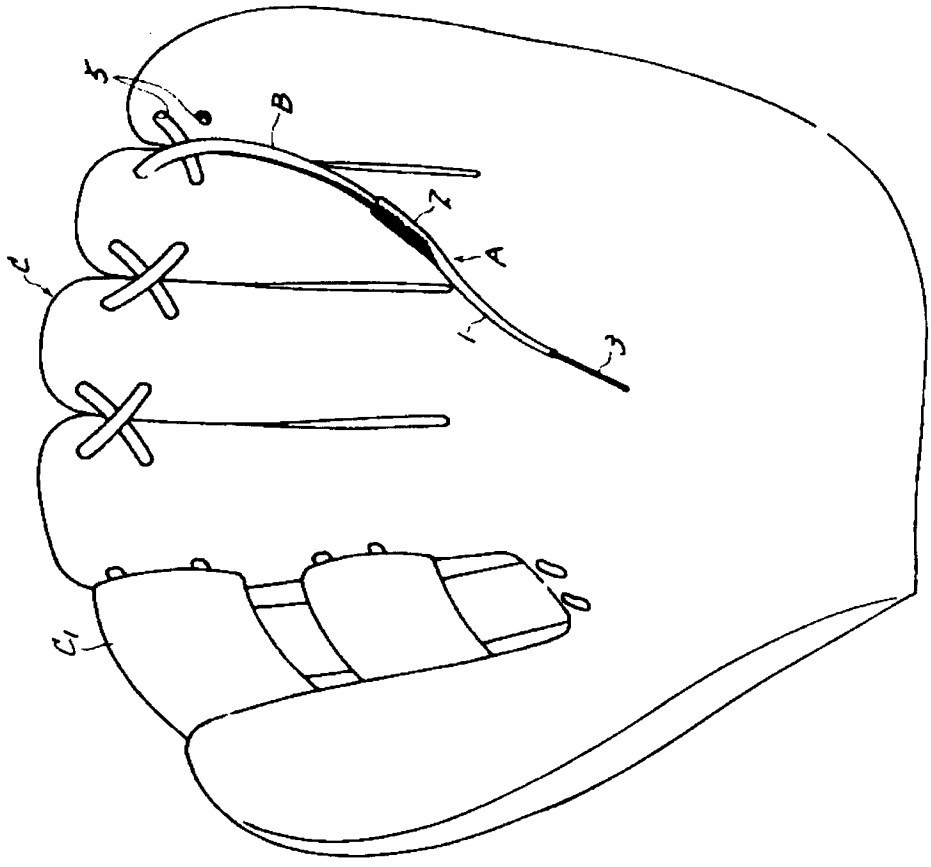
第 3 図



第 4 図



● 5 図



1/4

第 6 図

